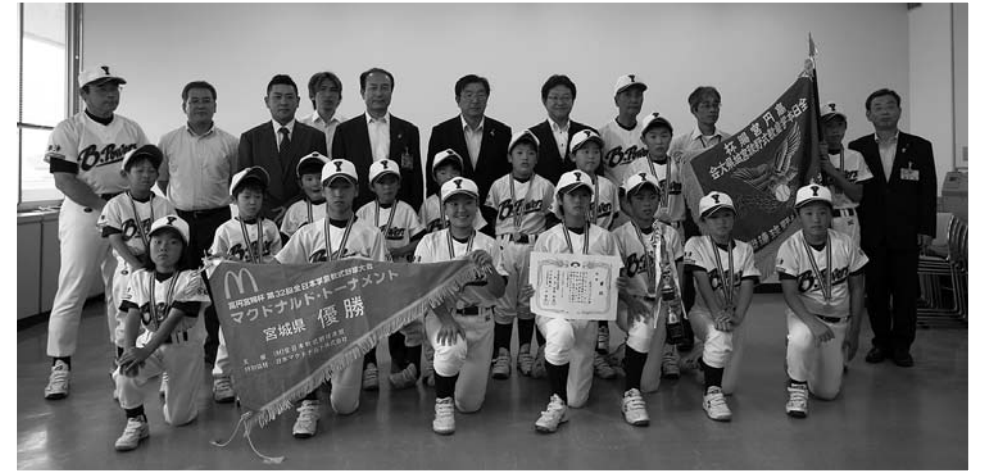


県制し、2度目の全国へ

津山・柳津ビックパワーズ



県優勝旗を手に市役所を訪問した柳津ビックパワーズナイン

県内310チームが参加した高田宮賜杯第32回全日本学童軟式野球大会宮城県予選会で、柳津ビックパワーズ（津山・柳津小）が優勝し、全国大会の切符を手に入れました。同大会で優勝したのは一昨年に続いて2度目となります。7月3日に選手16人と監督、保護者などが市役所を訪れ、

市では、7月2日に平成24年度優良工事施工業者表彰式を行いました。これは、前年度に完成した300万円以上の市発注工事の中から、他の模範となる工事を施工した業者を表彰するもので、今年14社が選ばれました。迫公民館で行われた表彰式

技術力を評価

優良工事14社を表彰

では、各社の代表者一人一人に布施市長から表彰状が手渡されました。受賞者を代表してあいさつした榊只野建設の只野利幸代表取締役は「災害復旧や震災復旧に向けて大変な状況が続いていますが、登米市が発展するように、今後もより良い工事を行っていきたい」と述べました。



優良工事施工業者として表彰を受けた14社の皆さん



登米教育資料館を訪れた訪問団一行。右から市青少年海外派遣受入事業実行委員会の佐々木信一監事、佐々木清公委員長

ヨウコソ、TOMEへ

サウスレイクから訪問団

6月5日から11日までの7日間、姉妹都市のアメリカタキサス州サウスレイク市から高校生の男女二人とその随行二人が登米市を訪れました。一行は、ホストファミリーとなる伊藤栄さん（登米町）、菅原貞治さん（東和町）、千葉一義さん（中田町）宅にそれぞれホームステイしながら市

内を視察。登米町の教育資料館を視察したり米山町のイチゴハウスでイチゴ狩りを体験したりしました。8日には迫公民館で歓迎夕食会が開催され、布施市長をはじめ市国際交流協会会員や青少年海外派遣事業で海外に行った生徒たちなどが出席し交流を深めました。

出水期に備える

市水防訓練を実施



堤防からの越水を防ぐ積み土のう工法

6月24日、長沼フットピア公園で市水防訓練が実施されました。消防団の士気高揚と水防体

制の強化を目的に毎年3地区合同の輪番制で行っているもので、今年も迫、中田、石越支団から83人の団員が参加しました。訓練では、袋に砂を詰めて土のうを作る「準備工法」や、堤防の越水を防ぐ「積み土のう工法」、漏水の圧力を弱めて漏水量を軽減させる「月の輪工法」を実施。東日本大震災で河川の堤防が被災していること、これから出水期を迎えることもあって、各支団とも真剣な表情で訓練に取り組んでいました。



開会式で力強く宣誓する佐沼高校ボート部の主藤主将

ボートの第21回河北レガッタ2000が6月22日から24日までの3日間、県長沼ボート場で開催されました。昨年は震災の影響で中止となったため、2年ぶりの開催です。22日の開会式では、選手を代表して佐沼高校ボート部の主藤卓也主将（南方町）が「最後まで全力でこぎ切るこ

とを誓います」と力強く選手宣誓しました。今年も震災の影響などにより出場数は減ったものの、県内はもとより福島や東京、静岡など6都県から57クルー、約128人が出場。年代別、男女別の4部門15種目で、2000リートの熱いレースが繰り広げられました。

6次産業化を学ぶ

セミナーに80人参加

市および市農業振興協議会では、6月4日に「6次産業化セミナーin登米」を開催しました。セミナーは、6次産業化を推進することで登米地域の農林業の発展に役立てようというのが狙い。6次産業化とは、生産から食品加工、流通販売

までの一貫した取り組みにより、特産品の付加価値を高めることです。会場の中田農村環境改善センターには生産者や農業団体、企業関係者など約80人が参加。東北農政局や市の担当者が、6次産業化の動向や支援策などを紹介しました。平成23年には国において6次産業化法が施行されています。



6次産業化の可能性について講師の話に熱心に聞き入る参加者

6都県から57クルー

第21回河北レガッタ



各クルーとも白熱したレースを展開